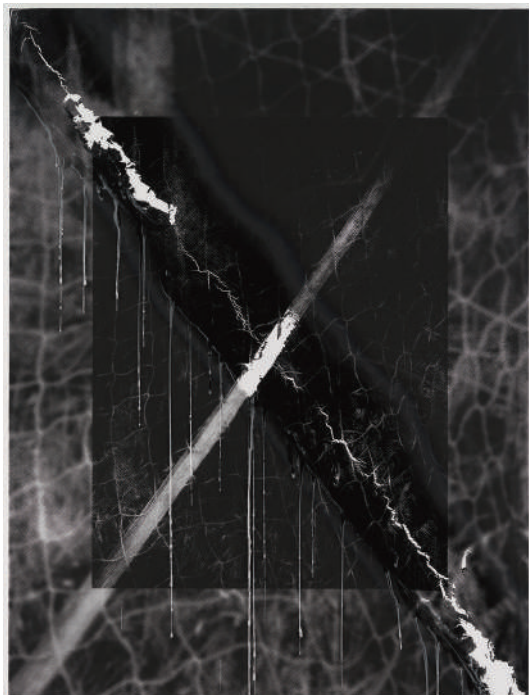
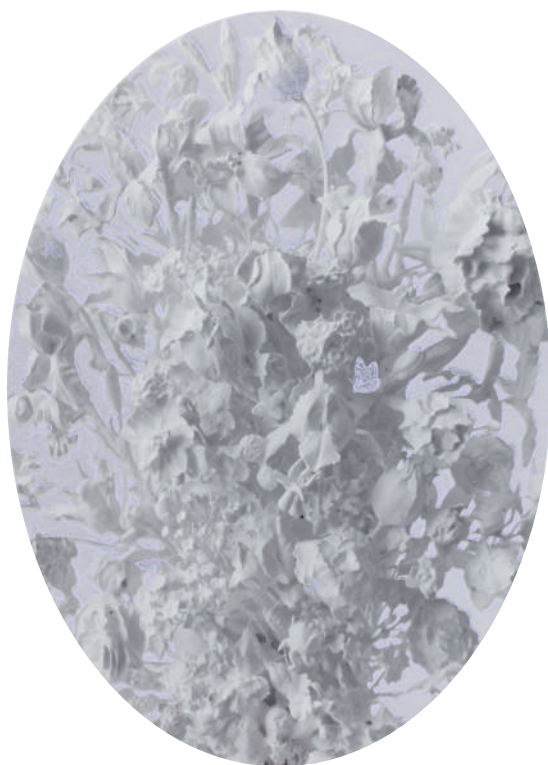
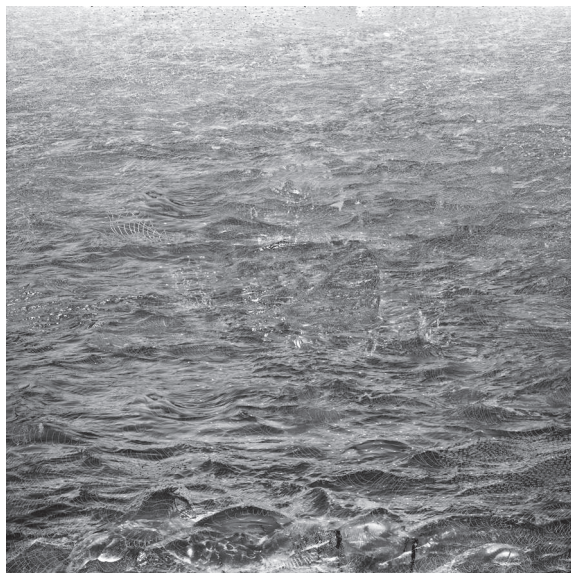


金光男—倉地比沙支—山田純嗣  
Forbidden colors 禁じられた色彩



1

2

3

令和4年1月8日[土]—1月23日[日]

愛知県立芸術大学サテライトギャラリー SA・KURA

アクセス 461-0005 愛知県名古屋市中区東桜1-9-19 成田栄ビル地下1階 TEL&FAX 052-212-9316

時間 12時—19時 休廊 1月11日[火]、17日[月]

<https://aia-sakura.com/>

映画「戦場のメリークリスマス」で坂本龍一ピアノ曲いわゆる「戦メリ」は有名ですが、実は歌詞があります。イギリスのアバンギャルド系のロックバンド「JAPAN」のボーカリスト・デヴィッド・シルヴィアンが坂本のピアノの伴奏で歌った曲名が「Forbidden Colors」=禁じられた色彩です。映画では、男色の狭間で揺れる日本軍将校と英軍捕虜との禁断の愛がテーマでしたが、制約を与えることで何かの世界が広がるという点では、美術表現にも当てはめられるのかもしれませんが。また、黒澤明監督の「椿三十郎」では白黒映画にも関わらず、白い椿と赤い椿が登場し、見る側の創造の視覚では着色されているのではないのでしょうか。

現代の美術界においても、モノクロ、モノトーン(1色)形式を採用しながら、新たな表現の領域を開拓しようとする多くの作家が、絵画、立体、版画、写真など、様々な表現フィールドに存在します。「手間暇かけた迂回の作法」である版を主に展開する今回の3名の作家の作品は、豊かな色彩を排除する事で、かえって描かれているモチーフや内容を際立たせ、さらに特化された技巧性が重なり、作品に独特のリアリティをもたらす効果を出しているのかもしれませんが。(倉地)

出品作家によるギャラリートーク  
1月8日[土] 15:00-  
(人数限定・事前予約制)

※新型コロナウイルス感染症の状況により、変更又は中止する場合がございます。最新情報は、本学ウェブサイト、SA・KURAウェブページをご確認ください。感染症対策のため入場制限を行っております。申し込みは下記QRコードからお進みください。



お問合せ|愛知県立芸術大学 芸術情報・広報課  
TEL 0561-76-2873 (平日 9:00-17:30)  
<https://www.aichi-fam-u.ac.jp/>





**金光男**<sup>|3|4|</sup>

シルクスクリーンの技法を応用し、蠟を塗ったパネルにイメージを定着させ転写されたイメージにあえて熱を加え、溶けて崩れながら固められた作品をメインに制作。

前回の個展では、ジャンクの緑色のカナディアンカヌーを赤色に塗り直したことから始まった回顧と、これからの事についてのインスタレーションを行った。

4 色を扱った個展からもう1度モノクロームに戻る際、何が見えるのか、何も変わらないのか...後はボケとブレについて。

**山田純嗣**<sup>|2|5|</sup>

ウユニ塩湖やグランドキャニオン、ピラミッドなどの人気の観光地、森の中や海、雪景色など、思わず写真に撮りたくなる情景に共通するのは、雑多なものが排除され、ある要素に絞られていること。そのことは、ミニマル・アートの特徴である、単一性と反復性にも通ずる。人が目を奪われるのは、雑多なものではなく、単一のものや統一されたものであり、豊かさは、少ない情報の中から想像を膨らませる人の内にあるのかもしれない。

ポッティチエリの《プリマヴェーラ》は、それが何を表しているのかしばしば議論される作品であるが、私はあの作品の足元の花がとても好きだ。中世のタペストリーに描かれる「ミルフルール」の様式を引き継ぎ、そこにルネサンスの自然主義を重ねて描かれた花々。私はその作品をモチーフに制作するにあたって、人物の姿を大きくカットした。それによって花に注目が行くのは当然だが、わずかに描かれた人物の足の優美さに気が付き、その先の描かれていない人物への想像が膨らむ、目の前の作品には色も姿もないにもかかわらず、絵を見るということは、作品の表面をなぞるように見ると同時に、目は表面から離れ、浮遊し、記憶が喚起されることでもあるだろう。

**倉地比沙支**<sup>|1|6|</sup>

自身がよく使う「ナマ」という言葉。「ナマ=生」が「ヌメリ・湿潤・水」であるとするならば、対峙語は「渴き・乾燥」・死になるのだろうか。

表面は乾いているが内部は潤っている。魚類や軟体動物を除き、生き物とはおおかたそのような性質を持っているのだろう。テーマは、「表面は乾いているが地中は湿潤」という自身の来歴に起因するクリスピーグラウンドという大地の印象や、川の上層を流れる本流の地下で流れる伏流水を軸に制作する。



5

1. 山田純嗣《(21-17) VASE OF FLOWERS》2021年|H300×215mm|パネルに印画紙、樹脂、インタリオ・オン・フォト
2. 倉地比沙支《Crispy water 伏流水 (2021-4)》2021年|H520×520mm|Pigment Print、耐光性メディウム、アクリル絵の具
3. 金光男《Control Control》2020年|H803×W606×D24mm|パラフィンワックス、シルクスクリーン、キャンバス、バーナー|Photo by Ichiro Mishima|Courtesy of LEESAYA
4. 金光男《family》2020年|H531×W411×D22mm|パラフィンワックス・シルクスクリーン・キャンバス、バーナー|Photo by Ichiro Mishima|Courtesy of LEESAYA
5. 山田純嗣《(21-5) PRIMAVERA》2021年、H800×3140mm|パネルに印画紙、樹脂、インタリオ・オン・フォト
6. 倉地比沙支《Crispy water 伏流水 (2021-7)》2021年|H520×520mm|Pigment Print、耐光性メディウム、アクリル絵の具



6

**Forbidden Colors**

禁じられた色彩

金光男  
倉地比沙支  
山田純嗣

